

令和元年 2 学期終業式 式辞

今日で 2 学期が終了します。1 年生、2 年生、3 年生ともに新しい学年、新しいクラスになって 3 分の 2 が終わります。この 9 か月、皆さんはよく頑張ったと思います。各自、自分を褒めてやっていただきたい終業式の今日です。

ところで、皆さんは、「なぜ、学校というものが存在している」と思いますか。なかったらどうなのでしょう。小学校、中学校、高等学校と学んできましたが、なぜ学校があるのでしょうか。その存在理由の最たるものは、「多くの者が集まって学ぶのに学校という場が必要だから」です。

確かに、知識・技能を身につける観点から考えると、学校は効率的であり、多様なニーズに応えることができます。しかし、家庭でも、あらゆる分野の優秀な家庭教師を用意すれば、もっと短時間で高い学力がつくかもしれませぬ。なぜ、学校があるのかというと、みんなで学ぶためにあるのです。クラスがあり、40 人が共に学ぶというところに価値があるのです。学校は、学級は「学びの共同体」であるわけです。

「学びの共同体」では、一人で学ぶ以上のものが身につきます。知識・技能も切磋琢磨していく中で、より高度に、より

深く、より巧みになっていきます。そして、何より、人間が磨かれ、人格が陶冶され、思いやりや優しさなど豊かな人間性が育まれていきます。社会性が身に付き、自己中心的なものの考え方から、利他の心が芽生え、人のために尽くすことができる人間に成長することができます。それは、3年生が見事に証明してくれていると思います。

この9か月、皆さんの学校生活は順風満帆な日々ばかりではなかったのではないかと思います。失敗や挫折、失恋や別れ、成績も思うように伸びず、友達ともぎくしゃくしたり、対立したりしたかもしれません。それらは、すべて人と関わるということから生じるものです。

本県出身の詩人、塔 和子さんの詩にはこうあります。「恋も友情も 関わることから始まって 関わったがゆえに起こる 幸や不幸を 積み重ねて大きくなり 繰り返すことで磨かれ そして人は 人の間で思いを削り 思いを膨らませ 生を綴る」

まさに、私たちは、幸や不幸を積み重ねながら成長し、その繰り返しのなかで磨かれていきます。その中で、私たちは思い、つまり「言いたいことや夢や希望など」を削ることもあ

れば、思いを膨らませることもあるのです。そしてより良き大人になっていくのです。

私が今日、皆さんにお願いしたいことは、失敗や挫折、対立や衝突は、あって当たり前だということ、そして、それら乗り越えて前進してほしいということです。失敗があるからこそ、成功にたどり着けるのです。

(本校OBの銀行員の方のエピソードの紹介)

家族や友達とけんかしても、すべて、おはようなどの、さりげないあいさつから始めてください。これからの人生において、人間関係の修復は大切です。何故なら、けんかをしないで生きていくことは難しい、だれだってけんかはするものだからです。

「ああ何億の人がいようとも 関わらなければ路傍の人
私の胸の泉に 木の葉一枚落としてもくれない」ハンセン病患者として生きた塔 和子さんの人生に対して、この詩に込められた魂の悲痛な叫びに対して、私たちは周りの人とよく関わって生きていく義務があると思います。

3年生の皆さん。いよいよ最後の冬がやってまいりました。受験は団体戦だとよく言いますが、共に学んでいるからこそ

強いのです。南高の仲間も頑張っているから自分も頑張ろう、共に受験に立ち向かおうと、深夜疲れたらクラスメートの頑張っている姿を思い起こしてください。きっとあと30分は頑張れます。「焦らず 慌てず あきらめず」です。皆さんにエールを送って終業式の式辞とします。